

大井川用水の色はなぜ白い？



赤崩



ボッチ薙

これは流域の地質が、中生代白亜紀の四万十層や第三紀層の瀬戸川層が帯状に配列され、砂岩や泥岩から構成されており、また、中央構造線と糸魚川ー静岡構造線に挟まれていることから地殻変動や風化を受けて非常に脆弱な地質で、上流域からの土砂流出が多いことと、更に、上中流域は標高が高く気温の較差が大きいことから風化が顕著であり、降水量も多く崩壊地も拡大しているため、これが大井川を白濁させる原因となっています。

現在は上流のダム群で上水放流等を行っているため大井川下流の本流は比較的透明な水です。しかしながら大井川用水については、発電用水を利用していることから大井川上流の水がトンネルを通じて直接流下しているため白濁しています。

大井川といふ渡りあり。 更級日記より
水の世の常ならず、
摺り粉などを濃くて流したらむやうに、
白き水、早く流れたり。

『更級日記』は、菅原道真の5世孫にあたる菅原孝標の次女菅原孝標女(寛弘5年(1008年)～?)が、平安時代中ごろに書かれた回想録で、作者が13歳の寛仁4年(1020年)から52歳頃の康平2年(1059年)までの約40年間に綴られています。上記の一節は、作者が寛元4年(1020年)に父の「任果てて」上京の際の大井川の状態を唱ったもの。